

40th ANNIVERSARY 山梨大学医学部附属病院開院40周年記念誌



山梨大学医学部附属病院
University of Yamanashi Hospital

〒409-3898 山梨県中央市下河東 1110
1110 Shimo-kato, Chuo City, Yamanashi Prefecture 409-3898
TEL 055-273-1111
<http://www.hosp.yamanashi.ac.jp/>



山梨大学医学部附属病院 執行部

左から、副病院長 / 石原 昭
副病院長 / 波呂浩孝
副病院長 / 中島博之
病院長補佐 / 桐戸敬太

副病院長 / 村松陽子
病院長 / 木内博之
病院長補佐 / 佐藤 明

副病院長 / 川村龍吉
病院長補佐 / 副島研造
副病院長 / 市川大輔



山梨大学医学部附属病院 開院 40 周年記念挨拶

山梨大学医学部附属病院
病院長
木内博之

本年、山梨大学医学部附属病院が開院 40 周年を迎え、これまでご指導ご支援いただきました多くの方々、山梨大学医学部同窓会ならびに職員の皆様方に心より感謝いたします。

山梨大学医学部附属病院は、山梨医科大学開学の 5 年後の 1983 年（昭和 58 年）4 月 1 日に設置され、初代病院長に岩井正二先生が就任し、10 月 4 日に開院記念式典を挙行、10 月 12 日から診療を開始しました。当時、16 診療科、321 病床でスタートしましたが、現在では、27 診療科、28 中央診療施設、そして 618 病床と拡大し、職員総勢約 2200 人を擁する山梨県唯一の特定機能病院として、地域医療に貢献しております。

当院は、開院以来、「一人ひとりが満足できる病院」の理念の下、目標として「共に考える医療」、「質の高い安全な医療」、「快適な医療環境」、「効率の良い医療」、「良い医療人の育成」を達成すべく、取り組んで参りました。しかし、近年の医療の高度化に伴い、医療安全のさらなる充実を達成すべく、2021 年（令和 3 年）より病院の基本理念を「すべての患者さんに安心を」に変更し、高度医療の中核として、患者さんに良質で最適な医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人の育成と臨床医学の発展に貢献すべく、日々精進しております。

2013 年（平成 25 年）の開院 30 周年以降の 10 年間に於いて、当院では、特筆すべき出来事が 2 点ありました。ひとつは、病院再整備事業です。開院以来、山梨県の地域医療の中核として患者さんを見守って

きた初代病院施設も過ぎゆく年月には勝てず、2013 年（平成 25 年）に新改築工事が着工されました。すでに中央診療棟・特殊診療棟の改修工事は終了し、診療支援棟、そして 2 つの新病棟が完成となり、残すところ外来機能強化棟の建設となりました。2027 年開業予定のリニア中央新幹線の開通を踏まえ、利便性を考慮した設置を計画しております。県外ならびにインバウンドを視野に入れつつ、山梨県の医療の中心として貢献できる病院づくりを目指して参ります。

もうひとつは、COVID-19 です。当院は、この未曾有の危機に対して、感染当初から率先して中等症～重症患者を受け入れ、救命に努めて参りました。ドライブスルーによる PCR 検査やワクチン接種を積極的に推し進め、宿泊療養施設や県外への医療者派遣への参画に加えて、山梨大学発の ICT を活用した健康観察システム（SHINGEN）を提供し、療養体制の強化と効率化を推進いたしました。COVID-19 は、当院のパンデミックにおける責務と役割についての再認識に加え、山梨県との綿密な協力体制構築の良い機会となりました。今後起こりうる新興感染症や災害時においてもイニシアチブを発揮して県内医療の最後の砦であり続けます。

これからも、当院のさらなる発展に向けて、職員一同、全力で取り組む所存でございます。何卒、変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。40 周年の御礼とご挨拶とさせていただきます。

理念・基本方針・目標

病院の理念

すべての患者さんに安心を

基本方針

当院は、高度医療の中核として、
患者さんに安全で最適な
医療を提供するとともに、
人間性豊かな医療人の育成と
臨床医学の発展に貢献します。

目標

- ◆患者さん中心の医療の提供
- ◆多職種連携による安全で質の高い医療の実践
- ◆先進医療の推進と医学の発展への貢献
- ◆自らの使命と責任を自覚し、豊かな人間性と
高い倫理性を備えた医療人の育成
- ◆地域連携の強化による医療、介護および福祉の向上

当院は病院機能評価の認定病院です

病院機能評価は、我が国の医療機関機能の充実・向上を図るために、公益財団法人日本医療機能評価機構が第三者機関として中立的な立場に立ち評価するもので、同法人が定める基準を満たした認定病院数は、令和5年7月7日現在で全国8,139病院中2,000病院です。当院では、平成12年1月に初めて認定を受けて以降、平成17年、平成22年、令和4年に受審しています。

機能種別版評価項目 3rdG: Ver2.0
主たる機能 一般病院3
(主として、高度の医療の提供、
高度の医療技術の開発・評価、高度の医療に関する
研修を実施する病院または準ずる病院)



沿革

昭和 53年 10月 1日	山梨医科大学開学
昭和 55年 4月 1日	山梨医科大学開校
昭和 58年 4月 1日	山梨医科大学医学部附属病院(16診療科4中央診療施設)設置 初代病院長に岩井正二が就任
10月 4日	施設竣工並びに医学部附属病院開院記念式典を挙げる
10月 12日	診療業務開始(321床)
昭和 59年 10月 29日	441床に増床
昭和 60年 3月 7日	443床に増床
4月 5日	600床に増床
昭和 61年 5月 1日	第2代病院長に菅原克彦が就任
昭和 63年 5月 1日	第3代病院長に鈴木宏が就任
平成 2年 4月 1日	第4代病院長に上野明が就任
平成 4年 4月 1日	第5代病院長に加藤精彦が就任
平成 5年 10月 8日	山梨医科大学医学部附属病院開院10周年記念式典を挙げる
平成 7年 3月 1日	特定機能病院承認
平成 10年 4月 1日	第6代病院長に塚原重雄が就任
平成 12年 1月 24日	病院機能評価認定(Ver.3)((財)日本医療機能評価機構)
平成 14年 10月 1日	山梨医科大学と山梨大学の統合により山梨大学医学部附属病院に名称変更 第7代病院長に熊澤光生が就任
平成 16年 4月 1日	国立大学法人山梨大学設立
平成 17年 1月 24日	病院機能評価更新(Ver.4)((財)日本医療機能評価機構)
4月 1日	第8代病院長に星和彦が就任
平成 21年 4月 1日	第9代病院長に島田真路が就任
平成 22年 1月 24日	病院機能評価更新(Ver.6)((財)日本医療機能評価機構)
平成 23年 4月 1日	606床に増床
平成 25年 10月 25日	山梨大学医学部附属病院開院30周年記念式典を挙げる
平成 27年 4月 1日	第10代病院長に藤井秀樹が就任
6月 30日	山梨大学医学部附属病院新病棟(Ⅰ期)竣工
12月 26日	618床に増床
平成 29年 4月 1日	第11代病院長に武田正之が就任
令和 2年 6月 30日	山梨大学医学部附属病院新病棟(Ⅱ期)竣工
令和 3年 4月 1日	第12代病院長に榎本信幸が就任
令和 4年 6月 3日	病院機能評価認定 一般病院3<3rdG: Ver.2.0>((財)日本医療機能評価機構)
令和 5年 2月 28日	山梨大学医学部附属病院診療支援棟竣工
4月 1日	第13代病院長に木内博之が就任

40周年に寄せて



山梨県知事
長崎幸太郎

山梨大学医学部附属病院の開院 40 周年を心からお祝い申し上げます。

山梨大学医学部附属病院は、本県唯一の大学病院として、昭和 58 年の開院以来、医療人材の育成や地域の病院への医師派遣、救急医療の提供など、本県地域医療の充実に極めて大きな役割を果たしていただいております。

また、世界中に恐怖と混乱をもたらした新型コロナウイルス感染症への対応では、県民の命と健康を守るため、率先して重症患者を受け入れるなど、多大なご貢献をいただきました。未知のウイルスに立ち向かわねばならない厳しい状況下で、貴院の存在は県にとって大変心強く、力を合わせてコロナ禍を乗り越えら

れたことを誇らしく、また嬉しく思っております。

木内病院長はじめ、歴代病院長の皆様並びに関係する皆様のこれまでのご尽力に、深く感謝いたします。

山梨大学医学部附属病院には、今後も本県医療の中心的存在として、政策医療を担っていただけるものと大いに期待しているところです。

県としても「必要な人に必要な医療を届ける」ことを基本原則に、医療行政の更なる発展に邁進して参りますので、引き続き格別なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山梨大学医学部附属病院の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

山梨大学医学部附属病院開院 40 周年に寄せて

山梨大学医学部附属病院開院 40 周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

昭和 58 年の開院以来今日までの、木内病院長をはじめ歴代の病院長の皆様方並びに関係者の皆様方のご尽力に対し、深く敬意を表する次第でございます。

また、山梨大学医学部附属病院は、県内唯一の特定機能病院として、地域の中核的医療及び高度医療の要であると同時に、診療を通じて教育・研究を行う中で、医療従事者を養成する役割を担っていただいております。

昨今の新型コロナウイルス感染症の対応におきましては、当市のワクチンの集団接種に対する医師の派遣や、緊急時の医療体制

の整備、市内医療従事者の職域接種の実施等、多大なご尽力をいただいております、重ねて感謝申し上げます。

山梨大学医学部附属病院には、様々な面で多大な貢献をいただいているところでありますが、今後とも地域住民の健康を守る拠点として、また地域医療に対するニーズに応える基幹病院としての役割を担っていただけますようお願い申し上げます。

結びに、山梨大学医学部附属病院開院 40 周年を契機に、病院の理念である「すべての患者さんに安心を」の実現と地域医療の向上に寄与されることを心から祈念いたしまして、ご挨拶といたします。



山梨県中央市長
望月 智

開院 40 周年を祝して



学校法人北里研究所北里大学
特別栄誉教授
国立大学法人山梨大学
名誉顧問
大村 智

山梨大学医学部附属病院が地域の拠点病院としての役割を果たされて、開院 40 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

開院以来長きに渡り、地域住民の健康に関わる啓蒙活動を続けられると共に、健康が損なわれた場合の高度医療の備えを持って、住民が安心して生活できる優れた環境作りにより多大な貢献をして来られたことに敬意を表し、感謝申し上げます。

近年の医療に関わる知識や技術の進歩は目覚しく、これら最新医療を率先して適切に医療現場に取り入れ、今後も中核病院としての機能を一層充実させて行かれることを期待致しております。

病院ほど、多くの職種を異にする人々が集まって運営される職場は他にありません。様々な専門職の人々が力を併せて活動することには、多くの困難が予想されますが、これを乗り越えてこそ、病院の機能の充実に結びつくものであると思われまふ。度々病院にお世話になっている私は、この病院で働く方々が連携を密にして活動しておられる様子を拝見し、その美しさに感動したことが度々でした。

山梨大学医学部附属病院が地域の諸病院との連携を密にして地域医療の益々の発展を牽引されますことを祈念して、開院 40 周年のお祝いの言葉と致します。

40 周年に寄せて

本年、山梨大学医学部附属病院が開院 40 周年の記念すべき時を迎えましたことを、学長として大変嬉しく思い、心からお祝い申し上げます。

この節目を迎えることができたのは、教職員の皆様の献身的なご尽力、そして山梨県、文部科学省、厚生労働省などの行政機関をはじめとする地域社会の皆様のご支援とご協力があったからこそであります。皆様方に心より感謝申し上げます。

山梨大学は、「地域の中核、世界の人材」というキャッチフレーズを掲げ、大学統合の際に掲げた「諸学融合」の精神のもと、専門領域を超えた諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創設し、県下唯一の国立大学

として、様々な課題の解決に向け教育研究活動を展開し、地域貢献に力を注いでおります。

また、医師・看護師を養成する機関として、正しい倫理観を持った医療者の育成のみならず、国際的な視野を持ち、世界でも通用する優秀な医学研究者の養成にも力を入れております。

質の高い優れた研究活動を行い、よき医療者の育成を通じ、地域医療への貢献を担う、山梨大学医学部附属病院の今後ますますの発展を心から期待するとともに、附属病院の着実な発展のため、ご尽力、ご支援をいただいております全ての皆様方に、教職員を代表して、あらためて厚く御礼申し上げます。



国立大学法人山梨大学 学長
中村和彦

新型コロナウイルス感染症への対応・支援について

新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類感染症から、5類感染症へと2023年5月8日に変更となり、2020年1月から約3年間、当院で行ってきたコロナ対策・支援についてご紹介します。

2020
1月
2月

中国・湖北省武漢にて原因不明の肺炎に厚生労働省が注意喚起を行う。指定感染症となったことで、当院で患者受け入れ訓練を実施。

ダイヤモンド・プリンセス号で集団感染判明。県内医療機関の窮乏を救うべく、1例目の患者受け入れを決定（2月19日）。厚生労働省からの要請を受け、2月24日より1病棟（47床）を感染者受け入れ病棟に転換、多人数の患者受け入れを構築した。



感染者受け入れの様子



待機中の様子

新型コロナウイルス感染症により、髄膜炎を発症して本学附属病院に入院している患者の症例報告論文が、感染症に関する国際ジャーナル「International Journal of Infectious Diseases」に掲載される。

市中感染対策として、ドライブスルー形式のPCR検査システムを立ち上げる。山梨県と、県から委託された山梨県医師会と当院による共同事業としてスタートした。



シミュレーションの様子

医学部附属病院の医療従事者へ向けた新型コロナウイルスワクチンの接種を開始。



ワクチンの接種を受ける武田病院長

2021
4月

文部科学省からの看護師派遣要請に応え、新型コロナウイルスの感染拡大により医療の逼迫が深刻となっている大阪府へ集中治療部の山本雅弘看護師を派遣。



決意の言葉を述べる山本看護師

6月

文部科学省からの看護師派遣要請に応え、新型コロナウイルスの感染拡大により医療の逼迫が深刻となっている沖縄県へ古屋病院長特別補佐を、大阪府へ根岸看護師をそれぞれ派遣。

6月

新型コロナウイルスワクチンの職域接種を開始、翌7月に接種状況について記者会見を行った。



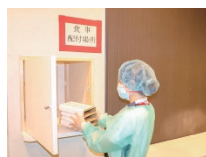
職域接種状況を説明する島田学長

8月

山梨県からの要請に応え、「宿泊療養施設」として稼働していた「東横 INN 富士河口湖大橋」に医師や看護師らを常駐させ、「医療強化型宿泊療養施設」として24時間体制で運営することとした。31日より「ホテルルートイン山梨中央」も加わった。両療養施設では、常駐する医師が患者の症状に応じて点滴や酸素吸入、投薬などの医療措置を行うほか、看護師が健康観察など患者のケアにあたった。



説明する井上感染制御部特任教授



食事配膳場所

2021
9月

宿泊療養から退所後のケアまでシームレスに医療スタッフが患者情報を共有する事が可能となるシステム『SHINGEN (Smart Health Information Gathering & Evaluation Network)』を開発。これは、患者自身がスマートフォンから症状などを入力し、医療従事者が一元管理するもので、「医療強化型宿泊療養施設」に導入している。



SHINGEN ロゴマーク

11月

県内初の新型コロナウイルス後遺症外来を開設。

2022
1月

年明けから山梨県内での新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の急激な感染拡大に伴い、山梨県からの要請に応え、医療強化型宿泊療養施設を再稼働した。



療養施設で対応あたる看護師ら

1月

新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の急激な感染拡大が確認され、医療提供体制が崩壊危機へ迫っている沖縄へ、文部科学省からの看護師派遣要請に応え、山中哲也看護師を派遣。



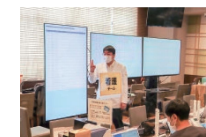
決意の言葉を述べる山中看護師

2022
1月

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染患者数が急増するなか、山梨県からの要請に応え、3か所目の医療強化型宿泊療養施設「ドリーミン甲府丸の内」を開設。



記者会見の様子
左から 中込病院准教授、井上感染制御部特任教授、榎本病院長



説明する施設リーダーの中込病院准教授

5月

新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の急激な感染拡大が確認され、医療提供体制が崩壊危機へ迫っている沖縄へ、文部科学省からの看護師派遣要請に応え、望月夏海看護師を派遣。



決意の言葉を述べる望月看護師

10月

新型コロナウイルスワクチン職域接種（オミクロン株対応ワクチン）を開始。



接種の様子

11月

新型コロナウイルス「第8波」により新規感染者が連日増加を続ける中、山梨県知事からの要請に応え、「夜間コロナ発熱センター」を開設。

令和3年度 山梨県県政功績者（新型コロナウイルス感染症対策関係）表彰
団体【特別功績】国立大学法人山梨大学 学長 島田眞路
団体【特別感謝状（患者の入院調整や情報管理等に関する貢献）】山梨大学医学部附属病院 DMAT
個人【特別感謝状（感染対策に関する助言や患者の入院調整に関する貢献）】山梨大学医学部附属病院感染制御部特任教授 井上 修

令和4年度 山梨県県政功績者（特別功績者）表彰
個人【特別功績者】国立大学法人山梨大学 学長 島田眞路



感染制御部 部長
井上 修

未知の感染症に混乱する中、当院は島田前学長や歴代病院長のリーダーシップの下、スタッフ全員が協力し県内医療を支えました。検査部は県内でも早く院内PCR検査を可能とし、救急部は医学部学生有志も参加したドライブスルー方式の検体採取システムを構築することで、正確迅速な診断力を県民に提供しました。また、入院前PCR検査を行い患者さんが安心できる療養環境を整えました。さらに7南病棟、旧1西病棟、休職していた旧4西病棟や新築

5西病棟での専門病棟運用、昼夜の発熱外来、医療強化型宿泊療養施設3施設の同時運用やワクチン職域接種、全ゲノム解析など、全員がフルパワーで「全ての県民に安心を」提供すべく奮闘しました。感染制御部として、チーム一丸となってこのような医療提供が継続できたことへの喜びとともに、当院のポテンシャルの高さを実感しています。今後、新たな困難に見舞われても、当院は乗り越えられると確信しております。

TOPICS

外科的治療の進化：ロボット支援手術 (da Vinci) の導入

ロボット支援下内視鏡手術部門長
三井貴彦

痛をはじめとする多くの疾患に対する治療において、外科的治療は重要な位置を占めます。当院が開院した40年前は開放手術が外科的治療の主要な方法でしたが、その後低侵襲手術として腹腔鏡手術が登場し、現在ではさらに進化したロボット支援手術が多くの術式で主流となりつつあります。ロボット支援手術の特徴として、鮮明な3次元カメラで体内を立体的に映し出し拡大した視野での操作が可能となっています。さらに、手術支援ロボットでは手術機器の先端に関節があり広い可動域での操作が可能であること、執刀医の手振れがないことなどから、より繊細かつ正確な手術操作が可能となっています。山梨大学医学部附属病院では、2013年に根治的前立腺全摘除術に対してda Vinci Siが導入されました。2019年からはda Vinci Xiとda Vinci Xの2台体制となり、現在では4診療科において本邦で保険取載されているほとんどの術式が施行可能となっ

ており、年間400件近くのロボット支援手術が行われています。このように、ロボット支援機器の導入により外科的治療は大きく進歩し、より安全で効果的な治療ができるようになりました。その一方で、ロボット支援手術を安全に行うためには、術者に専門的な知識や技術が必要なのはもちろんですが、助手や看護師、さらに機器を扱う臨床工学士を含めたチーム医療が今まで以上に重要となります。そのため、当院では複数の診療科および多職種によって構成される「ロボット支援下内視鏡手術部門」を立ち上げ、院内でのロボット支援手術に関する情報共有や勉強会を行うことで、より安全で効果的なロボット支援手術を行えるように努めています。今後も最先端のロボット支援手術を通じて、多くの患者さんにより良い医療を提供したいと考えています。



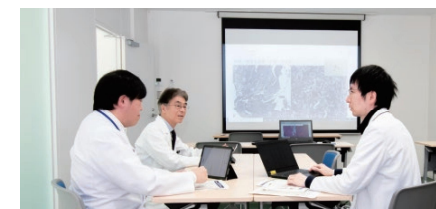
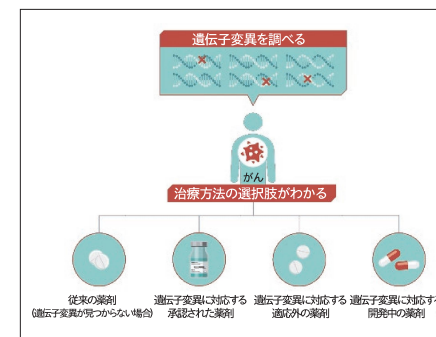
遺伝子パネル検査

がんゲノム医療部門長
副島研造

近年、がんゲノム医療の進展は目覚ましく、中でも、次世代シーケンサーによる包括的ゲノムプロファイリング(CGP)の導入は、治療戦略のパラダイムシフトをもたらしています。CGPではがん組織や血液を用いて、一度に数百個の遺伝子を解析可能で、遺伝子異常に基づいた個別化医療の提供が可能となります。

当院はがんゲノム医療連携病院の指定を受け、CGPを実施しています。実績件数は、2019年の4件から始まり、2020年15件、2021年48件、2022年73件、2023年は8月までの集計で64件と年々増加し、山梨県の中心として患者さんの医療に対する期待に応えるべく、がんゲノム医療を推進しています。

治験など新たな治療に繋がる情報がCGPで明らかになった場合、適切な治療施設への迅速な紹介を行っています。さらに、二次的所見として生殖細胞系列変異が検出された場合には、患者さんやご家族のための専門的な遺伝カウンセリングも行ってあります。



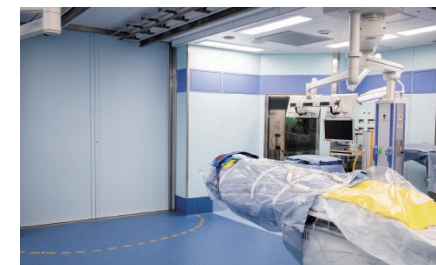
天井懸下式3テスラ高磁場術中MRIシステムの導入

脳神経外科講座 尚院教授
荻原雅和

脳は体全体を司る重要な臓器であり、解剖学的に機能部位が決まっているため、脳の手術には高い正確性が求められます。脳腫瘍においては、最大限の摘出は再発率の低下と予後の改善につながります。しかし、正常脳と脳腫瘍、特に神経膠腫との境界は分かり難く、従来は術者の経験に頼って摘出が行われていました。このため、腫瘍の残存や過度の摘出による後遺症が課題となっていました。

術中MRIは、手術中、全身麻酔下でMRIを撮影する画期的な方法です。術者は、手術途中で撮影したMRI画像をもとに腫瘍と周囲組織との位置関係を把握し、切除範囲を最適化することが可能となります。これにより、重要な機能を有する周囲の組織へのダメージを最小限に抑えつつ、腫瘍の完全摘出を目指すことが出来ます。

当院では、2016年の新病棟稼働に伴い、天井懸下式3テスラ高磁場(高性能)術中MRIシステムを導入し、前述の脳腫瘍に限らず様々な脳疾患に対して安全かつ確実な手術を行っております。今後も更なる最新の技術を取り入れつつ、より安全で効果的な脳疾患の治療に取り組んでまいります。



国内唯一の天井懸下式3T術中MRI

東部地域医療教育センター

東部地域医療教育センター長
榎本信幸

国立大学法人山梨大学は「大月市」と「包括的連携協定」を締結し、大月市立中央病院の診療体制を強化充実させ、地域医療の提供体制を整備する事業等で連携・協力することを申し合わせました。これを受けて持続可能な山梨県東部地域医療の提供および教育・研究体制を構築するため、令和5年2月1日に当センターは開設され、山梨大学医学部附属病院の中央診療部門等の一部に位置づけられました。

この連携・協力体制を具体的に進める当センターでは、大病院の常勤医師というキャリアを中断することなく派遣先に向かえるクロスアポイントメント制度を用いて2023年4月から大月市立中央病院に常勤医師3名の派遣を開始しました。同時に、毎月延べ約60名、160枠（外来及び当直・日直業務を含む）に非常勤医師を派遣しており、大月市立中央病院との医療連携はより強い確かなものになっています。



経営改革による成果について

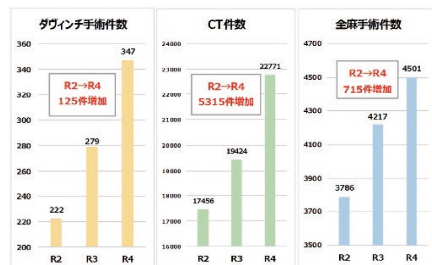
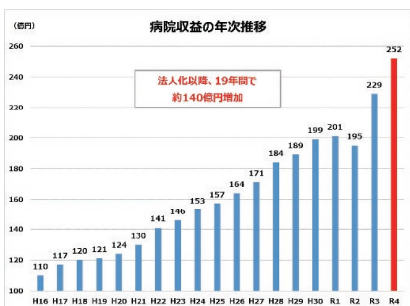
病院経営管理部

山梨大学医学部附属病院では、安全・親身・高度なチーム医療を実践し、山梨県の医療の中核となり、病院の理念である「すべての患者さんに安心を」送り届け、病に苦しむ人のいない社会を目指しています。

ここ数年では、他の国立大学病院との徹底したベンチマーク分析に注力し、改善すべきところにプロジェクトを立ち上げ、病院全体が教職員一丸となり取り組んだ成果として診療収益の大幅な増加に繋がりました。

そのために健全な病院運営を目指し、日頃から経営実態の把握に努め、運営改善に取り組んでいます。また、安定した経営基盤の下、質の高い医療を提供するための戦略を策定し持続可能な経営を推進しています。

今後は、コストパフォーマンスに優れた運営を継続しつつ、外来機能強化棟の新築に向け、更なる経営改革に取り組んでまいります。



総合支援部の活動

総合支援部長
波呂浩孝

山梨大学総合支援部は、「入退院支援センター」「医療福祉支援センター」「業務支援センター」の3つの組織で構成されています。総合支援部において大きな変革を迎えた入退院支援センター、業務支援センター内の病床管理室・地域医療連携室の3つの部門を取り上げます。

とする患者さんが増えており、在宅医や訪問看護師、ケアマネジャー等と双方向で患者さんのケアにあたるよう積極的に情報交換を行っています。

入退院支援センターでは、迅速かつ円滑に患者さんが治療を受けられるように、入院前から退院後、さらに外来患者の在宅療養を支援しております。

病床管理室では、病床管理室長と病床管理師長を中心に活動しております。コロナ対応の際には、各診療科や各病棟看護師のご協力のもと、連日、拡大病床会議を開催して病床を管理し医療崩壊を回避してまいりました。困難を乗り越えられたのは病床管理室が指揮を執り、病院が一丸となって取り組んだ結果だと言えます。

入院支援に関しては、入院前に看護師、薬剤師、栄養士、麻酔科医、歯科医などの多職種が関わり、患者さんから情報を聞き取りし、また患者さんの疑問・不安に答えることで入院への不安解消に努めております。退院支援は、転院調整・在宅調整が主な業務です。当院での急性期治療を終え、在宅復帰に時間が必要な場合には、回復期病院を始めとした後方病院へ転院をお願いすることが多く、迅速かつ正確な情報提供を心掛けております。在宅支援では、終末期や様々な医療処置を必要

地域医療連携室では、地域医療連携室長と地域連携室が中心となり地域の医療機関との連携に尽力しています。紹介元の医院・病院への受診報告書作成率は3年間100%を継続しています。令和4年2月から開始した初診患者のWeb予約は、単単で待機時間の短縮につながると好評で、地域医療連携登録医療機関も倍増となりました。今後もさらに地域の医療機関との連携強化を推進してまいります。



山梨大学医学部附属病院 再整備事業

山梨大学医学部附属病院では、最新の医療に対応する施設整備や県内唯一の特定機能病院として急性期医療の充実・先進医療への取り組みを加速させるため、病院再整備事業に着手し、すべての患者さんに「安心」を送り届ける山梨の医療の中核となり、病に苦しむ人のいない社会が実現することを目指します。

平成 27 年 12 月 南北病棟（Ⅰ期棟）運用開始

平成 27 年 6 月末に竣工した新病棟（Ⅰ期棟）は半年間の準備期間を経て同年 12 月 6 日に開院記念式典を挙行し、同月 26 日に病床 368 床に併せ、手術部・救急部等を既存病棟から移転して運用を開始しました。

- 【建物構造（概要）】
- 建物面積 4,075.57㎡ ■ 延床面積 20,916.40㎡
 - 鉄筋コンクリート造（免震構造）
 - 地上 7 階建（屋上ヘリポート整備）
 - 病床数 368 床（病院全体：618 床）



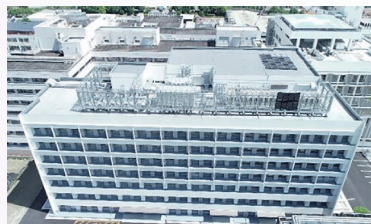
南北病棟（Ⅰ期棟）外観

令和 2 年 10 月 西病棟（Ⅱ期棟）運用開始

令和 2 年 6 月に新病棟（Ⅱ期棟）が竣工し、令和 2 年 10 月に開院いたしました。

Ⅱ期棟の特色として、1 階に新たな機能として入退院支援センター、各階に動線を分けた陰圧室、2 階に RI 病室、4 階に院内学級やプレイルーム、7 階に看護機能を備えた無菌エリア、4 床室程度の大きさの特別差額室を整備しました。

- 【建物構造（概要）】
- 建物面積 2,138.85㎡ ■ 延床面積 13,548.62㎡
 - 鉄骨造（免震構造）地上 7 階建
 - 病床数 250 床（病院全体：618 床）



西病棟（Ⅱ期棟）外観

令和 5 年 2 月 診療支援棟（Ⅲ期棟）竣工

令和 5 年 2 月に新たに診療支援棟が竣工しました。外來診療棟や中央診療棟に配置していた既存の管理部門を診療支援棟に集約しました。中でも診療支援部門である薬剤部及び臨床工学部を充足させ、動線の改善とともに診療支援機能の強化を図ります。医療の質・安全管理部、感染制御部といった管理部門も、病棟に近い位置に配置することにより、安全な医療の提供に繋がります。

- 【建物構造（概要）】
- 建物面積 1,469.00㎡ ■ 延床面積 7,951.63㎡
 - 鉄骨造（免震構造）地上 7 階建
 - 鉄骨造（耐震構造）地上 4 階建

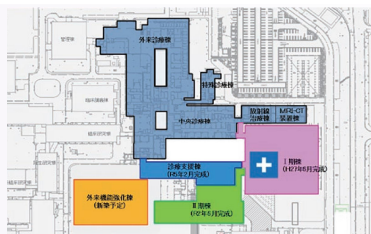


診療支援棟（Ⅲ期棟）外観

病院機能の更なる充実を目指し、 再整備計画を進めます

病院再整備事業は、令和 5 年 2 月にⅢ期棟である診療支援棟が竣工し、今後は外來機能強化棟の新築を予定しております。

30 年先の長期展望を踏まえ、病院経営を滞りなく行えるインフラを構築していきます。



再整備計画における配置計画図（背面は既存施設）

建物配置図



- ① 南病棟 ② 北病棟 ③ 西病棟
- ④ 中央診療棟 ⑤ 特殊診療棟 ⑥ 外來診療棟
- ⑦ 診療支援棟 ⑧ MRI-CT 装置棟 ⑨ 放射線治療棟
- ⑩ 病院駐車場

- ⑪ 中央機械室 ⑫ RI実験施設 ⑬ 動物実験施設
- ⑭ 院生研究棟 ⑮ 新臨床研究棟
- ⑯ 融合研究臨床応用推進センター ⑰ 臨床研究棟
- ⑱ 基礎研究棟 ⑲ 基礎実習棟 ⑳ 講義棟
- ㉑ 福利厚生棟1 ㉒ 福利厚生棟2 ㉓ 看護学科教育研究棟
- ㉔ 図書館 ㉕ 臨床講義棟 ㉖ 管理棟
- ㉗ どんぐり保育園 ㉘ 看護師宿舎A棟
- ㉙ 看護師宿舎B棟 ㉚ 非常勤講師宿泊施設
- ㉛ 看護師宿舎 ㉜ 職員宿舎 ㉝ 国際交流会館
- ㉞ シミックプラザ

